

過

日、函館を訪う機会があって、その折、特別史跡五稜郭に建てられている「男爵薯を讃ふ」の石碑を見ることが出来た。昭和22年5月、日射しの強い日の除幕式に招かれ出席したことを思い出して懐かしかった。碑文は私の恩師である北海道帝国大学総長・伊藤誠哉氏の書かれたものである。

碑は、幅約1メートル高さ約3メートルの安山岩（仙台石）による大きなもので、裏面には男爵薯保存協会の名によって「……この薯は極めて早熟な上に病害に強く、本道の風土にも適するので、約40年の間に全道に普

男爵いも を讃う

塩 田 弘 行

及栽培され本州はもとより海外へも移輸出されその声価は全国的に高まるに至った。このように本道農業経営とわが国食糧政策の上に安全性を築いた功績は広く世に紹介されてよ

表A 馬鈴薯の品種別作付の推移%（全国）

品 種 名	年 度									
	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元
紅 丸	17.9	19.8	19.2	19.2	20.7	20.9	19.8	17.9	17.0	14.9
農 林 1 号	11.7	9.6	9.3	8.9	8.6	7.7	7.5	7.2	7.3	7.2
エ ニ	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
タ マ	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1
エ ニ	3.6	3.2	2.8	2.5	2.4	2.1	1.5	1.4	1.1	1.2
デ キ	1.5	1.5	1.9	1.8	1.7	1.8	1.6	0.7	0.3	0.1
ワ シ	2.1	2.1	2.2	2.0	1.9	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7
ト セ	0.9	1.5	2.4	2.6	2.8	2.8	2.9	3.0	3.0	3.2
ニ ヨ	2.7	4.2	5.2	5.4	5.6	5.6	6.3	7.5	8.0	8.1
シ ャ	0.2	0.4	0.5	0.5	0.6	0.6	1.1	1.8	2.3	2.7
ホ ツ							0.6	0.9	0.8	0.8
コ ナ							4.9	6.5	5.8	5.0
ソ フ							0.9	0.8	1.0	1.4
小 計	41.9	43.6	44.8	44.4	46.3	47.3	48.9	49.7	48.3	46.4
導 入	42.0	40.6	39.0	38.2	35.8	34.2	33.3	33.4	34.0	35.2
メ ー	15.5	15.5	15.6	17.1	17.4	17.2	16.8	16.2	16.8	17.5
そ の	0.5	0.3	0.6	0.3	0.5	1.2	0.9	0.7	1.0	0.9
小 計	58.1	56.4	55.2	55.6	53.7	52.7	51.1	50.3	51.7	53.6
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

農林省畑作振興課による

表B 馬鈴薯の品種別作付の推移%（北海道）

年度		43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53
育成品種	農 林 1 号	43.2	39.7	34.6	35.8	33.2	27.4	26.1	25.7	22.2	20.1	18.7
	紅 丸	23.2	28.1	32.0	32.4	33.7	38.2	35.4	33.6	33.6	35.2	36.2
	エ ニ	10.5	10.1	8.0	6.7	6.6	6.3	5.6	6.2	7.6	8.0	8.0
	ユ キ ジ ロ	0.7	1.1	0.7	0.5	0.4	0.5	0.6	0.6	1.0	1.6	1.6
	ト ヨ シ ロ											
	ホ ツ カ イ ア	1.4	1.2	1.5	1.0	1.3	0.7	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3
	ハ ツ フ ブ キ											
	コ ナ フ ブ キ											
	ワ セ シ ロ											0.4
	ホ ツ カ イ コ ガ ネ											
導入品種	そ の 他	3.7	2.3	2.5	3.0	2.2	0.8	0.6	0.9	0.9	0.7	0.6
	小 計	82.7	82.5	79.5	79.6	77.5	74.1	68.8	67.5	65.7	66.0	66.0
	男 爵 い も	14.7	15.3	17.0	17.3	18.3	20.2	25.1	25.2	25.1	24.2	24.2
	メ ー ク イ ン	1.6	1.7	2.7	2.6	3.7	5.2	5.5	7.3	9.2	9.8	9.8
	そ の 他	1.0	0.5	0.8	0.4	0.5	0.3	0.6				
	小 計	17.3	17.5	20.5	20.3	22.5	25.7	31.2	31.5	34.3	34.0	34.0
	合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

北海道農政部畑作園芸課による。0.1%以下はカットした。

いと思ふ……」と刻まれている。

この碑は当初、五稜郭の表門近くに在ったが、昭和39年（1964）に催された五稜郭100年記念行事の一環で、環境整備がなされ、そのため現在は裏門の壕の辺に移されたもので、訪れた時、きれいに剪定された一位の木に囲まれて良く管理されていたようには見られましたが、星霜のうつりを感じて立ち去った。

男爵薯が本道に持ち込まれたのには色々な説があるが、周知のように川田男爵が、英国から導入したのが明治40年頃で、試作され好評を得たが、本来の薯の名前を忘れて、持ち込まれたのが川田男爵であるので、男爵薯と呼ぶようになったのが通説となっている。

馬鈴薯の品種改良は古くから行われていたが、特に戦後海外からの導入と、農業試験場にて交配作出され、「優良品種」として、命名公表され世に出たものが30余種に及んでいる。

然しこれらが、普及栽培の上では、僅かの品種の他はうたかたの如く消え去っているのが現況である。ここで「なぜなんだろう」「どうしてなんだろう」の疑問が出るが、それには答を避けたい。

男爵薯を振り返ってみると、導入後、年を追って作付は漸増し、全国的な場合には、近年でも40%近くを保ち、北海道のみを見れば、現在でも約26%で、トップを占めている。導入後85年、これは珍しいと言うより、驚くべきことで、生産者のみならず、味覚に敏感な消費者にも好まれてると言う事実、どこにその魅力が潜んでいるのであろうか。

それで、品種間にどのような作付面積の変遷があるのかを示すために、この10年ほどを別表のごとく取りまとめた。

人間が高齢者社会の中にあって、きんさん、ぎんさんと長寿を祝う世相と同様、馬鈴薯にもこの男爵薯が、まだまだ健在であることは喜ばしい現象と思っている。

馬鈴薯が、食卓の常備菜ともいわれ、長年人びとの健康食品として取上げられ、長寿の一端に尽くしていることを考えると、先年、JR山手線の車内に「太陽の恵みをたっぷりうけてすくすく育ち、各種ビタミン・ミネラル・植物センイをバランスよく含んだアルカリ性自然食のおいもに〔国民栄養賞〕をあげたい」の吊り広告があったのを思い出した。

54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3
18.9	17.1	12.9	12.2	11.4	11.2	10.1	9.7	9.7	10.2	10.1	9.1	7.7
33.6	32.6	34.8	33.4	33.2	34.1	34.3	32.0	29.3	27.9	24.9	24.7	25.2
7.9	6.5	5.6	4.9	4.3	4.0	3.4	2.5	2.4	1.8	2.1	2.0	2.2
2.0	2.7	2.9	3.3	3.2	2.8	3.0	2.6	1.2	0.4	0.2	0.1	0.2
1.7	3.7	6.1	7.2	7.0	6.9	6.4	7.5	8.9	10.1	10.2	9.6	9.5
0.2	0.2											
		0.1	0.3	0.3	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	
					1.1	3.6	7.8	10.6	9.5	8.3	8.4	9.2
0.9	1.2	2.0	2.5	2.7	3.0	2.6	2.6	2.9	3.2	3.5	3.6	2.9
			0.1	0.2	0.2	0.7	1.0	1.5	1.3	1.3	1.9	2.3
0.5	0.7	0.8	0.7	1.0	0.9	0.5	0.4	0.4	0.4	0.8	1.4	1.0
65.7	64.7	65.2	64.5	63.1	64.2	65.2	66.4	67.1	65.0	61.5	60.8	60.2
23.9	23.0	22.7	22.8	23.5	22.6	22.5	21.8	21.7	23.1	25.5	26.2	26.6
10.4	12.3	12.0	12.6	13.3	13.1	12.3	11.9	11.2	11.9	13.0	13.0	13.2
		0.1	0.1	0.1								
34.3	35.3	34.8	35.5	36.9	35.7	34.8	33.7	33.9	35.0	38.5	39.2	39.8
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0